

7月11（金）5年6年日本赤十字の方に着衣水泳を学びました

7月11日（金）に、日本赤十字社の方々を講師にお招きし、5年生と6年生を対象とした着衣水泳教室を実施しました。子どもたちは、もしもの時に命を守るための大切な方法を実践的に学びました。

子どもたちは、Tシャツやズボンを着用したままプールに入水し、服が水を吸うと体がどれほど重くなるかを体験しました。普段の水泳とは全く異なる感覚に、驚きの声が上がりました。

水に落ちてしまった際に最も大切なのは、慌てずに「浮いて待つ」ことであることを学びました。靴、特にスニーカーは浮力があり、体を浮かせる助けになります。また、水中では足元が滑りやすいため、靴を履いたままの方が安全です。長靴も浮力になります。無理に進もうとせず、口だけを水面に出して呼吸を確保することが最も重要です。Tシャツなどの服の中に空気を含ませることで、さらに浮力を得ることができます。

今回の着衣水泳教室で学んだ「浮いて待つ」技術は、もしもの時に命を守るための大切な知識です。慌てずに落ち着いて行動することが、安全につながります。安全への知識を、高めていきたいです。

保護者の方も一緒に参観いただき、学んでいただきました。

